# 令和８年度「学校推薦型選抜Ⅰ（小論文、個人面接）」講評

## １．小論文

（１）方法

本年度の小論文では、「地方から都市部への人口流出」に関する新聞記事を課題文とし、「社会問題の解決」と「個人の生き方の自由」との間に生じるジレンマにどのように向き合うべきかを問うた。

この課題は、課題文を精読したうえで、問題の背景や論点を的確に把握し、自分の意見を明確に表現できるかを評価するものである。また、本学のアドミッション・ポリシーに則り、広く社会の課題の探求と解決に、主体的に取り組む姿勢を持っているかを確認することを目的として作成された。

（２）結果に関する評価

評価のポイントは、①課題文で提示された内容をよく理解し、的確に要約することができているか、②提示された論点や、何が問題として問われているかを理解できているか、③資料から読み取った内容を踏まえ、問題に対し、自分の意見を明確に展開できているか、④文章全体を通して一貫性を保ちつつ、問題について論理的に論じることができているか、であった。

以上のことから、課題文をよく理解し、内容を簡潔かつ的確にまとめているもの、問題となるジレンマを正確に捉えているもの、その問題について自分の見解を独自の考えや知識、経験などをもとに説得力のある形で論証できているもの、さらに文章表現や構成が適切であるものは高い評価となった。

一方、課題文の要約が散漫もしくは過度に簡略的であったもの、主張が曖昧かつ論理的整合性がとれていないもの、また、問われている問題についての見解に偏りがあり、丁寧な議論がなされていないものは評価が低かった。誤字脱字が多いものや、段落分けなどについて構成が不十分なもの、指定された字数から極端に逸脱しているものなど、文章執筆における基本的な能力が十分でないと判断されたものについても評価が低くなった。

## ２．個人面接

（１）方法

生徒１人あたり約 20 分で面接を行った。評価の基準は次の３点であった。

① 表現する力

生徒が作成した志望理由書に記載されている自己のアピールポイントが上手く表現されているか。

面接員の質問に対して、自分の考えを簡潔かつ具体的に表現できているか。

② 面接の態度

相手の発言をしっかりと理解しようとする態度があるか。

対話に参加しようとする姿勢であるか。

発言に一貫性はあるか。

③ 適性や意欲

入学への真の意欲があるか。

「大学案内」などによって本学のカリキュラムの内容を理解しているか。

（2）結果に関する講評

上記の３つの基準を踏まえて評価をした。その結果、面接員のコメントは下記のようなものであった。

①「表現する力」に関するコメント

自分が高校３年間力を入れてきたことやアピールポイントなどについて、自らの言葉を使って具体的に表現した受験生には高い評価が与えられた。また、現時点における自身の将来の目標と本学のカリキュラムとの整合性について、志望理由書を含め具体的に伝えることができた受験生には高い評価となる傾向にあった。しかしその反面、本学のカリキュラムについての理解不足や、自らの将来のビジョンと本学のカリキュラムとの整合性や具体性に欠ける受験生には低い評価となる場合が多かった。受験生には、本学で学ぶことについてしっかりと理解をすることと同時に、将来のビジョンを具体的かつ自分の言葉で表現できることを期待したい。

②「面接の態度」に関するコメント

面接では、まずは面接官の質問に対し、しっかり理解した上で答えることが重視されており、そのような対応を行った受験生には高い評価となる傾向であった。反対に、質問に対して答えとなっていないような回答を繰り返す場合は評価を下げる傾向となった。緊張して多少受け答えがぎこちなくても、真摯な態度で対応すれば低い評価とはならない。受験生には、できるだけしっかりと質問内容を理解した上で、自分なりの意見を述べてほしい。

③「適性や意欲」に関するコメント

本学へ入学したいという意欲が感じられることは、最も重視される。しかし、単に入学したいという意欲に見合うだけの本学の学びについての理解も求められる。本学のアドミッション・ポリシー、カリキュラム、学びの特色（リベラル・アーツ教育など）について十分理解しておくことはもちろん、入学後に学びたい科目やゼミ、教養課程（グローバル人材養成プログラムと現代教養科目群）と専門課程（言語・文化、メディア・コミュニケーション、国際政治経済という３専攻）などの理解は不可欠である。本学についての理解の欠如は、入学者としての適性の欠如と評価される傾向にあった。

本学の学びについては、パンフレット等の内容の暗記となってはならず、できるだけオープンキャンパスや本学の様々な活動を通じて得たいわば「生きた」情報を基に理解してほしい。このような点を十分理解した上で、自分の将来のビジョンと本学の特徴との整合性について、表現できる受験生には高い評価が与えられた。また、入学後の本学での活動についても、明確かつ具体的なビジョンを持っている受験生が、より入学意欲が高いと評価される傾向にあった。受験生には、本学での学びを十分理解した上で、自分が本学の環境において、どのように成長したいのかを自分の言葉で説明してほしい。